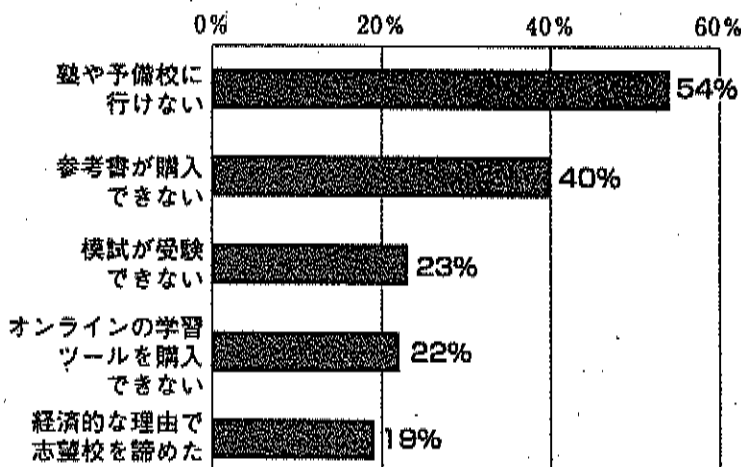


物価高 痛む子育て 困窮世帯

高校生2割「志望校諦めた」

子どもの学習支援や食料支援に取り組むNPO法人「キッズドア」が子育て中の困窮世帯を対象に実施した緊急アンケートで、高校生の子ともがいる家庭の2割が「経済的な理由で志望校を諦めた」と回答しました。コロナ禍や物価高騰の中、脆弱(せいじやく)な政策が子どもたちの将来をも奪いかけていることを示しました。

高校生の進路・進学への影響 (複数回答)



(キッズドアの緊急アンケートから)

暖房つけない73% ■栄養とれてない70%

NPOアンケート

調査は、キッズドアの年末年始の食料支援を申し込んだ世帯を対象に、11月11日から16日に実施。184世帯が回答しました。88%がひとり親世帯。57%が世帯所得200万円未満です。

物価上昇で家計が苦しくなった家庭は99.8%。「子どもを厳しくなった」は取れていない「70%」「病

74%に上りました。高校生がいる家庭では「塾や予備校に行けない」が54%、「参考書が購入できない」40%など、学習や進路に影響が出ています(グラフ参照)。

全体では「子どもに食べさせるため親の食事を減らしたり抜いたりして」いる「49%」「暖房をつけないようにしている」が73%を占めました。

子どもの心身の成長の悪影響について「大いに」出ている「出ている」が49%。「必要な栄養が取れていない」70%、「病

「政府に伝えたいこと」には100%の世帯の自由記述の回答が寄せられました。「本来、本来にきついです。なんでこまで値上がりするのか。寒い寒いという子どもを見ていたら生きていくのがつらい」といった悲痛な声が集まっています。

キッズドアの渡辺由美子理事長は11月28日の会見で「コロナ禍となり3年、いまだに抜本的な解決策がないまま、子育て困窮世帯はひたすら痛んでいる」と話しました。

キッズドアは同日、「子どもの命と将来を守るための緊急提言」を発表。政府に対し、▽命を守るためのすみやかで継続的な現金給付▽児童手当の高校生までの引き上げなど高校生がいる世帯への支援▽給付型奨学金の給付対象の拡大など大学進学への支援などを求めています。



調査結果を説明するキッズドアの渡辺由美子さん(左)＝11月28日、厚生労働省